

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成20年5月22日 (2008.5.22)

【公開番号】特開2003-105165(P2003-105165A)

【公開日】平成15年4月9日 (2003.4.9)

【出願番号】特願2001-297246(P2001-297246)

【国際特許分類】

C 0 8 L 53/02 (2006.01)

C 0 8 J 5/00 (2006.01)

C 0 8 K 3/22 (2006.01)

C 0 8 K 5/053 (2006.01)

C 0 8 L 23/00 (2006.01)

C 0 8 L 91/00 (2006.01)

C 0 9 K 21/04 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 L 53/02

C 0 8 J 5/00 C E R

C 0 8 K 3/22

C 0 8 K 5/053

C 0 8 L 23/00

C 0 8 L 91/00

C 0 9 K 21/04

【手続補正書】

【提出日】平成20年4月3日 (2008.4.3)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 2 5 】

本発明で用いるオレフィン系樹脂 (b) は、エチレン、プロピレン等の - オレフィン
を主体とした重合体であり、これらの単独重合体のほか、プロピレンを主成分としてプロ
ピレンとエチレン、ブテン、ペンテン等との共重合体やプロピレンに他の 2 種以上のオレ
フィンを共重合した樹脂、エチレンを主成分としてエチレンとブテン、ヘキセン、オクテ
ン等との共重合体やエチレンに他の 2 種以上のオレフィンを共重合した樹脂を例示するこ
とができ、いずれも好ましく使用できる。本発明では、ポリエチレン、ポリプロピレン、
エチレン - プロピレン共重合体等がその代表例として挙げられる。更に、本発明で使用す
るオレフィン系樹脂 (b) は、エチレン、プロピレン等のオレフィン以外に少量のビニル
系の単量体が共重合されたものも用いることができる。このような例としては、エチレン
- 酢酸ビニル共重合体、エチレン - (メタ) アクリル酸共重合体、エチレン - (メタ) ア
クリル酸誘導体共重合体等があり、さらにはブタジエン、イソブレン等の共役ジエン系単
量体の重合体の水添物も含む。これらの樹脂は 2 種類以上混合し使用することも可能であ
る。本発明では、得られる組成物の加工性、機械的性質を考慮すればポリプロピレン系樹
脂、例えばポリプロピレンおよびポリプロピレンとエチレン - プロピレン共重合体の混合
物が最も好ましく使用される。なお、オレフィン系樹脂 (b) としては、市販品を使用す
ることもでき、例えば、グラントポリマー社製の商品名「グラントポリプロ B 2 2 1 : (ラン
ダムタイプ)」などを好ましく使用できる。オレフィン系樹脂 (b) のメルトフロー
レート (MFR) には厳密な意味での制限はないが、通常、230、21.2N の条件

で測定したMFRとして0.5～50 g / 10分の範囲であるものが好ましく、1～30 g / 10分の範囲であるものがより好ましい。上記の条件で測定したMFRが1 g / 10分未満である場合、得られる難燃性水添スチレン系エラストマー組成物の流動性が劣る傾向となり、一方、MFRが50 g / 10分より大きい場合には、得られる難燃性水添スチレン系エラストマー組成物の力学物性が不足する傾向となる。